

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 宮 田 明 美

論 文 題 目

The effects of acute treatment with ramelteon, triazolam, and placebo on driving performance, cognitive function, and equilibrium function in healthy volunteers

(健常人におけるラメルテオン、トリアゾラム、プラセボの急性投与が運転技能、認知機能、平衡機能に与える影響)

論文審査担当者
主 査

名古屋大学教授

委員

小川豊昭



名古屋大学教授

委員

山田清文



名古屋大学教授

委員

阿部健治



名古屋大学教授

指導教授

尾崎 泰江



論文審査の結果の要旨





本研究は、作用機序の異なる睡眠薬であるラメルテオンとトリアゾラムを、健常人にそれぞれ急性投与し、運転技能、認知機能、平衡機能に与える影響を検討した。その結果、両薬剤において半減期を超えた投与 4 時間後まで、車線維持技能、視覚的注意や遂行機能、平衡機能に影響を及ぼす可能性があることが明らかになった。新薬であるラメルテオンは認知機能への影響が少ないことが期待されていたが、運転シミュレータ上でコースアウトする被験者が一定数みられ、運転技能に悪影響を及ぼしうることが示唆された。また、トリアゾラムは低用量であっても、ラメルテオンより運転技能や認知機能を悪化させる可能性が示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. TMT-A は単純な試験ながら、有用性が高いことが報告されている。最近のメタアナリシスでは、TMT-A により健常者とうつ病患者を区別できるが、TMT-B では差がなかった。TMT-B の複雑さが分散を引き起こし統計的に有意でなくなる可能性や、TMT-A への初期暴露が TMT-B の成績に影響すると示唆する論文もある。
2. 睡眠薬の半減期と作用時間は一致しない。両者とも個人差が存在する上、特に作用時間については十分な検討がない。何時間経てば影響がなくなるかということは調べられていない。本研究では 4 時間までの検討であり、そこまでは影響があったことを確認した。
3. 先行研究では車線維持課題のみの検討であったが、我々の研究は、実際の交通事故で最多の追突事故と関連がある追従走行課題と、緊急時のブレーキ操作と関係がある飛び出し課題についても検討を行った点である。サンプルサイズは評価項目によっては検定力が十分でないものがあるが、一定数の被験者の運転に悪影響を及ぼしたことを観察したことに本研究の意義がある。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	宮田 明美
試験担当者	主査	小川豊昭  山田清文  門下 健 		
	指導教授	尾崎 純 		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Trail-Making Test part Aの検出力が高かった理由 2. 睡眠薬が自動車運転に与える影響と内服後時間との関係について 3. 研究の新規性とサンプルサイズについて <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、精神医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				